

WebSphere. Lombardi Edition 7.2

高速インストールおよび構成ガイド



目次

著作権表示	1
概要	2
Lombardi 製品のコンポーネント	2
Lombardi アーキテクチャー	2
Lombardi のインストール・オプション	5
「簡易」インストール・オプションを使用した Lombardi Process Center のインストール	6
Lombardi Process Center をインストールするためのステップ	6
プリインストール・セットアップ	7
Lombardi Process Center をインストールするためのハードウェア要件	7
Lombardi Process Center をインストールするためのソフトウェア要件	7
高速インストール	8
Lombardi インストーラーの「簡易」オプションを使用したインストールの実行	9
高速インストールが失敗した場合のシステムのクリーニング	10
ポストインストール・タスク	10
Lombardi 製品コンポーネントの開始と停止	11
Lombardi Authoring Environment の初期ビューのナビゲーション	11
Lombardi コンポーネントの削除	15
特記事項および商標	16
特記事項	16
商標	17

著作権表示

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、[特記事項](#)に記載されている情報をお読みください。

© Copyright International Business Machines Corporation 2010. All Rights Reserved.

IBM WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 Licensed Materials - Property of IBM.

概要

このガイドでは、Lombardi インストーラーの「簡易」インストール・オプションを使用して、Lombardi Process Center をインストールして構成する方法について説明します。Process Center は、複数のプロセス作成者のための中央開発環境およびリポジトリとして機能します。Process Center には Process Center Server と Performance Data Warehouse が含まれており、作成者は開発作業中にプロセス・アプリケーションをビルドして実行することや、テストおよびプレイバックのためにパフォーマンス・データを保管することもできます。

Lombardi 製品のコンポーネント

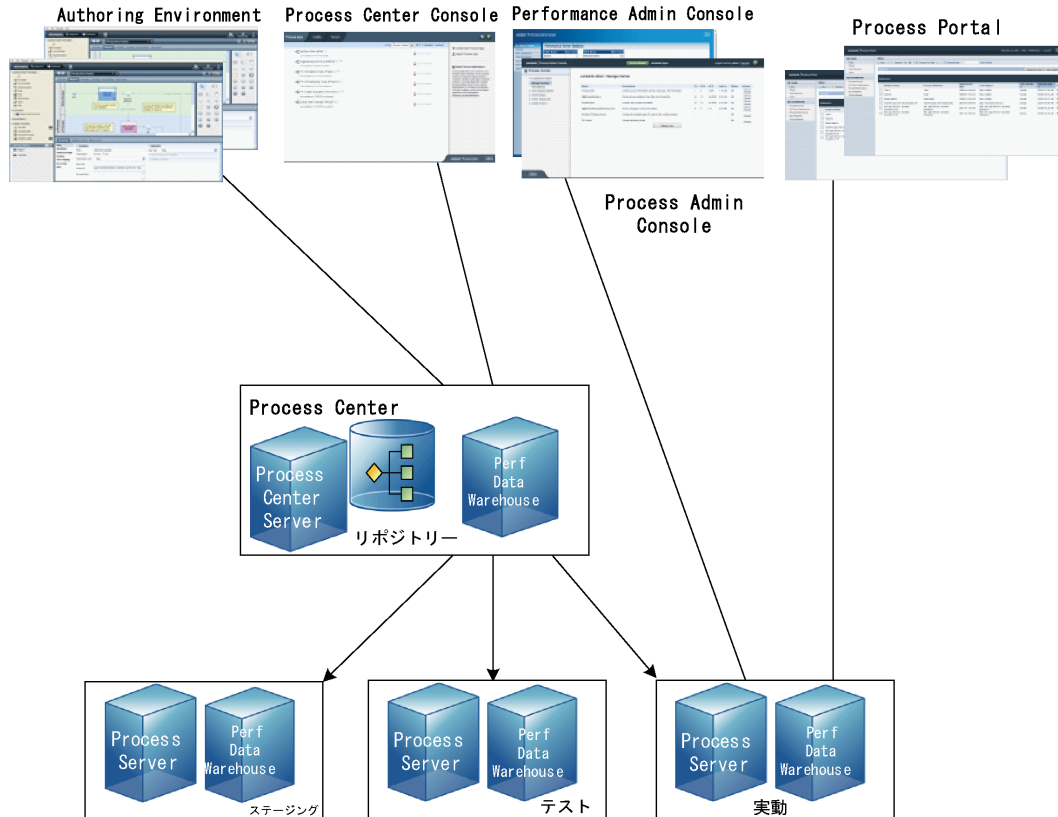
IBM® WebSphere® Lombardi Edition には、以下のコンポーネントが含まれています。次の表は、それらのコンポーネントが一般的にどのように構成されているかを示しています。

コンポーネント	機能
Process Center	Lombardi Authoring Environment の Process Center Console やその他のインターフェースで作業する複数のプロセス作成者に、中央の開発環境およびリポジトリを提供します。Process Center には Process Center Server と Performance Data Warehouse が含まれており、ユーザーは開発作業中にプロセス・アプリケーションをビルドして実行でき、テストとプレイバックの目的でパフォーマンス・データを保管することもできます。
Process Server	Lombardi Authoring Environment でビルドされ、Process Center リポジトリに保管され、その後、ランタイム環境にインストールされたプロセスおよびサービスを実行します。
Performance Data Warehouse	Lombardi Authoring Environment で設定されたトラッキング要件に従って、プロセス・データを収集および集約します。
Process Center Console	プロセス・アプリケーション、ワークスペース、およびスナップショットの管理も含め、ユーザーが Lombardi リポジトリを管理および保守できるようにします。また、ランタイム環境で、プロセス・アプリケーションを Process Server にインストールできるようにします。
Authoring Environment	Lombardi Authoring Environment は、プロセス作成者にビジネス・プロセスのモデル化、実装、シミュレーション、および検査を可能にする、いくつかのインターフェースから構成されています。
Process Portal	プロセス参加者に、割り当てられたタスクの実行、タスクの履歴の表示、およびプロセスとチームのパフォーマンスの表示を可能にするインターフェースを提供します。Process Portal を使用して、プロセス参加者は Process Center Server または任意の構成済みランタイム環境 (テスト環境や実稼働環境など) にある Process Server に接続できます。
Process Admin Console	管理者に、任意の構成済みランタイム環境 (テスト環境や実稼働環境など) にある Lombardi Process Server の構成と保守を可能にするインターフェースを提供します。また、管理者が Process Center Server を構成および保守できるようにします。
Performance Admin Console	管理者に、任意の構成済みランタイム環境 (テスト環境や実稼働環境など) にある Lombardi Performance Data Warehouse の構成と保守を可能にするインターフェースを提供します。また、管理者が Process Center に組み込まれた Performance Data Warehouse を構成および保守できるようにします。

Lombardi アーキテクチャー

次の図は、一般的な IBM WebSphere Lombardi Edition の構成の例を示しています。

概要



- Lombardi Authoring Environment から、複数のユーザーが Process Center に接続します。
- Lombardi Authoring Environment では、ユーザーはプロセス・モデルとそれをサポートする実装 (プロセス・アプリケーション) を作成し、それらのアプリケーションとそれに関連する項目を Process Center リポジトリに保管します。Process Center に接続した Authoring Environment ユーザーは、項目を共用できます。
- Process Center には Process Center Server と Performance Data Warehouse が含まれており、Lombardi Authoring Environment で作業するユーザーは、開発作業中にプロセス・アプリケーションを実行して、テストおよびプレイバックの目的でパフォーマンス・データを保管できます。
- 管理者は Process Center Console から、ステージング、テスト、または実動用に準備が整ったプロセス・アプリケーションを、それらの環境の Process Server にインストールします。
- 管理者は Process Center Console から、すべての構成済み環境内で実行中のプロセス・アプリケーション・インスタンスを管理します。
- エンド・ユーザーは Process Portal から、割り当てられたタスクを実行します。構成済みランタイム環境の Process Center Server および各 Process Server は、割り当てられたタスクを作成するプロセス・アプリケーションを実行できます。
- Process Portal を使用して、プロセス参加者は、プロセスが開発中かテスト中か、それとも実稼働環境へリリースされたかに応じて、Process Center Server またはいずれかの構成済みランタイム環境の Process Server に接続することができます。
- Lombardi Performance Data Warehouse は Process Server または Process Center Server から、トラッキングされたデータを定期的な間隔で取り出します。ユーザーは Lombardi Authoring Environment および Process Portal で、そのデータを活用したレポートを作成および表示できます。

概要

- 管理者は Process Admin Console および Performance Admin Console から、すべての Lombardi サーバーを管理および保守できます。

Lombardi のインストール・オプション

目的の作業	インストールする内容	説明の参照先
プロセス・モデルを作成し、プロセス・ステップを実装し、中央リポジトリに接続して作業を共有する。	Lombardi Authoring Environment (Windows® のみ)	<i>Lombardi Authoring Environment</i> インストールおよび構成ガイド
プロセス作成者に中央リポジトリおよび共有開発環境を提供する (既存のデータベースを使用して)。	Lombardi Process Center (Process Center Server、Performance Data Warehouse、および Authoring Environment を含む)	<i>Lombardi Process Center</i> インストールおよび構成ガイド
Lombardi サーバーを、ステージング、テスト、実動などのランタイム環境にインストールする (既存のデータベースを使用して)。	Lombardi ランタイム環境 (Process Server および Performance Data Warehouse を含む)	<i>Lombardi ランタイム環境</i> インストールおよび構成ガイド
Lombardi Process Center を組み込みの DB2 Express データベースとともに高速にインストールする。	Lombardi Process Center (Lombardi インストーラーの「簡易」オプションを使用) (Windows のみ)	「簡易」インストール・オプションを使用した Lombardi Process Center のインストール
Lombardi Process Center のインストールを自動化する。	Lombardi Process Center (Automated Installer を使用)	<i>Lombardi Automated Process Center</i> インストールおよび構成ガイド
ランタイム環境 (ステージング、テスト、実動など) への Lombardi サーバーのインストールを自動化する。	Lombardi ランタイム環境 (Automated Installer を使用)	<i>Lombardi ランタイム環境の自動化</i> インストールおよび構成ガイド

「簡易」インストーラー・オプションを使用した Lombardi Process Center のインストール

Lombardi インストーラーの「簡易」オプションは、以下の Lombardi 製品コンポーネントをインストールします (詳しくは、[Lombardi 製品のコンポーネント](#)を参照してください)。

- Process Center Server
- Process Center Console
- Authoring Environment
- Process Portal
- Process Admin Console
- Performance Data Warehouse
- Performance Admin Console

インストーラーの「簡易」オプションは、Lombardi Process Center を高速にデプロイするために設計されています。「簡易」オプションは、最も一般的な構成を使用して Lombardi Process Center をインストールし、ユーザーの入力は最小で済みます。

Lombardi インストーラーの「簡易」オプションを使用して Lombardi Process Center をインストールする方法について詳しくは、以下のセクションを参照してください。

Lombardi Process Center をインストールするためのステップ

以下の表は、Lombardi インストーラーの「簡易」オプションを使用して、Lombardi Process Center をシステムにインストールするために必要なステップのリストです。



Lombardi インストーラーの「簡易」オプションを使用して Lombardi Process Center をインストールするには、ローカル管理者権限を持つローカル・アカウントを使用する必要があります。


表 1. プリインストール・セットアップ

タスク	参照先
1. ハードウェア要件を満たします。	Lombardi Process Center をインストールするためのハードウェア要件
2. ソフトウェア要件を満たします。	Lombardi Process Center をインストールするためのソフトウェア要件

表 2. インストール

タスク	参照先
1. 高速インストールを実行します。	Lombardi インストーラーの「簡易」オプションを使用したインストールの実行

表 3. ポストインストール・タスク

タスク	参照先
1. Lombardi 製品コンポーネントを開始します。	Lombardi 製品コンポーネントの開始と停止  <p>このステップは、インストーラーで Lombardi 製品コンポーネントを開始できない場合にのみ必要です。</p>

プリインストール・セットアップ

「簡易」インストール・オプションを使用して Lombardi Process Center をインストールする前に、以下のセクションで述べるシステム要件を満たす必要があります。

Lombardi Process Center をインストールするためのハードウェア要件

以下の表で、Lombardi Process Center の高速インストールのためのハードウェア要件を説明します。



デフォルトでは、Lombardi インストーラーは、インストール中に Windows "temp" ディレクトリーを一時ストレージ用に使用します。TMP および TEMP 環境変数を変更することにより、一時ディレクトリーを変更できます。示されているように、これらの変数が、十分な空き領域を持つドライブ上のディレクトリーに設定されていることを確認してください。

Lombardi のインストール項目	必要な最小ハードウェア
Express	各 1.3 GHz のデュアル・プロセッサ、または 2.2 GHz のシングル・プロセッサ 3 GB の使用可能な RAM 4 GB の空きディスク・スペース (Lombardi サーバー、アプリケーション、およびデータベース用) 2 GB の空きディスク・スペース (開発時のデータベースの追加増分用) 10 GB の空きディスク・スペース (デフォルトの一時ディレクトリー) Lombardi Authoring Environment を表示するために、1280 × 1024 ピクセルの画面解像度

Lombardi Process Center をインストールするためのソフトウェア要件

以下の表で、Lombardi Process Center の高速インストールのためのソフトウェア要件を説明します。

表 4. Lombardi のソフトウェア要件

ソフトウェア	バージョン
Microsoft® Windows	Microsoft® Windows Server 2003 (64 ビットおよび 32 ビット) Microsoft Windows Server 2008 (64 ビットおよび 32 ビット) Microsoft Windows Server 2003 R2 (64 ビットおよび 32 ビット) Microsoft Windows Server 2008 R2 (64 ビットおよび 32 ビット) Microsoft Windows Vista (64 ビットおよび 32 ビット) Microsoft Windows XP Service Pack 3 (SP3) Microsoft Windows 7
クライアント・ブラウザ	Microsoft Internet Explorer 6/7/8  Internet Explorer 8 では互換表示を有効にしてください。 Mozilla Firefox 3

高速インストールでは、以下の必須ソフトウェアがシステムに自動的にインストールされます。

ソフトウェア	バージョン
アプリケーション・サーバー	WebSphere® Application Server バージョン 7.0
データベース	DB2® Express Edition バージョン 9.7 フィックスパック 1  DB2 Express Edition を使用するには、Microsoft .NET Framework バージョン 2.0 ランタイムが Windows ホスト上にインストールされている必要があります。

高速インストール

インストールのハードウェア要件とソフトウェア要件を満たした後、「簡易」インストール・オプションを使用して Lombardi Process Center をインストールすることができます。このインストールに必要なのは数回のクリックだけで、それで Lombardi を開始できます。Lombardi インストーラーの「簡易」オプションは、自動的に以下を実行します。

- WebSphere Application Server インストールして構成します。
- Lombardi の実行に必要な Windows サービスをインストールして開始します。
- DB2 Express Edition をインストールします。
- Lombardi Process Center Server および Performance Data Warehouse 用の DB2 Express Edition データベースを作成して初期化します。
- Lombardi サーバーを始動します。
- システム・データとサンプルをインポートします。
- Lombardi Authoring Environment を起動します。

- Lombardi プログラムのショートカットを作成して、Lombardi コンポーネントにアクセスしやすくします。
- 使用可能なすべての言語パックをインストールします。(使用可能な言語パックは WebSphere Lombardi Edition リリース・ノートにリストがあります。)



Lombardi インストーラーの「簡易」オプションによって作成されるデータベースには、tw_proc および tw_perf という名前が付きます。また、インストーラーは、WSLE (ユーザー名)、L0mbard1#BPM (パスワード) という資格情報のアカウントを、DB2 Express Edition へのアクセス用に作成します。

次のセクションで、高速インストールの実行方法について説明します。

Lombardi インストーラーの「簡易」オプションを使用したインストールの実行

以下のステップでは、高速インストールを実行するための手順を説明します。高速インストールを行うには、ご使用のオペレーティング・システムに合った Windows 用の WebSphere Lombardi Edition 7.1.0 インストーラーを使用し、「簡易」インストール・オプションを選択してください。



Lombardi インストーラーの「簡易」オプションを使用して Lombardi Process Center をインストールするには、ローカル管理者権限を持つローカル・アカウントを使用する必要があります。



デフォルトとは異なるユーザー名およびパスワードを DB2 Express Edition に指定したい場合は、コマンド行からインストーラーを実行できます。デフォルトでは、インストーラーは、WSLE (ユーザー名)、L0mbard1#BPM (パスワード) という資格情報のアカウントを、DB2 Express Edition へのアクセス用に作成します。異なるユーザー名およびパスワードを指定するには、インストーラーを Windows コマンド・プロンプトから次の例に示すように実行してください。

```
teamworks_install.exe -Ddb2.user=[user_name] -Ddb2.password=[password]
```

ユーザー名とパスワードの要件は、Windows オペレーティング・システムのセキュリティ設定に基づきます。

1. WebSphere Lombardi Edition インストーラーを、ご使用のファイル・システム上の一時ディレクトリにコピーします。



Windows インストーラーは、32 ビットおよび 64 ビット・オペレーティング・システムで使用可能です。必ず、ご使用の Windows オペレーティング・システムに合ったインストーラーをコピーして使用してください。

2. インストーラー実行可能ファイルをダブルクリックして、Lombardi インストーラーを開始します。
3. 情報やオプションを表示する際に Lombardi インストーラーが使用する言語を選択してから、「OK」をクリックします。

ドロップダウン・リストから選択する言語は、インストーラー自体にのみ適用され、製品とともにインストールされる言語パックには影響しません。「簡易」インストール・オプションは使用可能なすべての言語圧縮をインストールします。(使用可能な言語パックは WebSphere Lombardi Edition リリース・ノートにリストがあります。)

4. 「Introduction」パネルを読み、「次へ」をクリックします。

5. Lombardi Software のご使用条件を読みます。同意する場合は、「**I accept the terms of the license agreement**」を選択します。「次へ」をクリックして先に進みます。
6. 「セットアップ・タイプの選択」パネルで、「簡易」を選択します。
7. 「Choose Install Folder」パネルで、Lombardi 製品コンポーネントをインストールするディレクトリーを指定し、「次へ」をクリックします。



Lombardi 製品コンポーネントのインストール用に指定するディレクトリー・パスに、スペースを含めることはできません。ディレクトリー・パス内のスペースは、一部の環境で問題の原因となります。

8. 「Choose Shortcut Folder」パネルで、Lombardi インストーラーのコンポーネントのショートカットを作成するロケーションを指定します。

インストールの準備ができたなら、「**Install**」をクリックします。インストールが完了するまで、数分がかかります。

9. インストールが完了したら、「**Done**」をクリックします。

高速インストールが失敗した場合のシステムのクリーニング

Lombardi インストールがセットアップ・プロセス中にフリーズした場合は、以下のようにして、インストールされた可能性がある Lombardi 製品コンポーネントをすべて削除する必要があります。

1. 「Windows タスク マネージャ」を使用して、「Simple Install」プロセスを終了します。
2. 「スタート」メニューから、「コントロールパネル」>「プログラムの追加と削除」を選択した後、プログラムのリストから IBM WebSphere Lombardi Edition を削除します。
3. Lombardi インストール・ディレクトリーをファイル・システムから削除します。
4. インストーラーによって [Lombardi_home]¥DB2 ディレクトリーが作成されている場合は、そのディレクトリーとその中に入っているすべてのファイルを削除します。
5. [Lombardi インストーラーの「簡易」オプションを使用したインストールの実行](#)で説明されている手順に従って、インストーラーを再度実行します。

ポストインストール・タスク

インストーラーの「簡易」オプションを使用してシステムに Lombardi Process Center をインストールした後、以下のセクションで説明するように、Lombardi Authoring Environment を開始して、プロセスのモデル化を開始することができます。



Lombardi 製品コンポーネントをインストールしたディレクトリーは、[Lombardi_home] で表されています。



Lombardi Process Center のオプションの構成タスクの実行については、「[Lombardi Process Center インストールおよび構成ガイド](#)」を参照してください。

Lombardi 製品コンポーネントの開始と停止

Lombardi インストーラーで Lombardi サーバーおよびインターフェースを開始できなかった場合は、以下のセクションで述べるように、Windows の「スタート」メニューまたはコマンド行から製品コンポーネントを開始できます。

Windows の「スタート」メニューのショートカットから Lombardi 製品コンポーネントを起動するには、「スタート」>「プログラム」>「IBM WebSphere Lombardi Edition」を選択した後、開始したいコンポーネントを選択します。Lombardi サーバー (Process Center Server および Performance Data Warehouse) は、Lombardi Authoring Environment または Process Center Console の開始前に開始する必要があります。



Lombardi Process Center Console または Lombardi Authoring Environment にログインするには、デフォルトの管理ユーザー名 (tw_admin) とデフォルトの管理パスワード (tw_admin) を使用するか、デフォルトの作成ユーザー名 (tw_author) とデフォルトの作成パスワード (tw_author) を使用します。デフォルトのシステム・ユーザー名とパスワードを変更したい場合は、「*Lombardi Process Center* インストールおよび構成ガイド」の『*Lombardi ユーザー・アカウントのセットアップ*』を参照してください。Lombardi ユーザーおよびグループを作成および管理したい場合は、「*Lombardi 管理ガイド*」の『*Lombardi ユーザーの管理*』を参照してください。

コマンド行から Lombardi コンポーネントを開始および停止することもできます。Lombardi サーバー (Process Center Server および Performance Data Warehouse) を開始するには、以下のようになります。

1. コマンド・プロンプトから [Lombardi_home]/bin ディレクトリーまでナビゲートします。
2. startLombardi.cmd を実行します。

Lombardi サーバーを停止するには、以下のようになります。

1. コマンド・プロンプトから [Lombardi_home]/bin ディレクトリーまでナビゲートします。
2. stopLombardi.cmd を実行します。

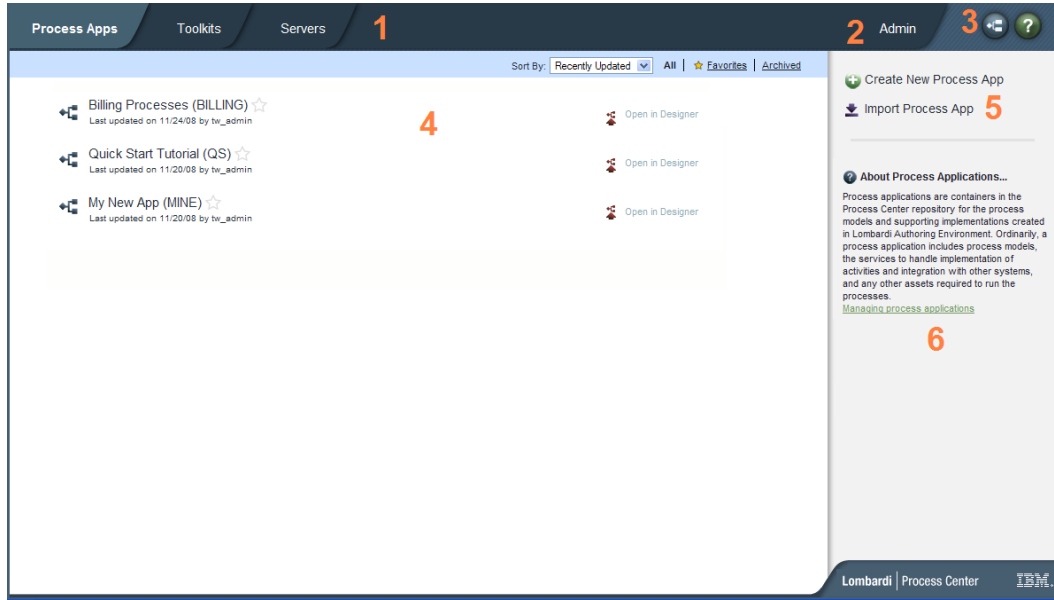
Lombardi Authoring Environment を開始するには、以下のようになります。

1. コマンド・プロンプトから、[Lombardi_home]/Lombardi Authoring Environment ディレクトリーまでナビゲートします。
2. eclipse.exe を実行します。

Lombardi Authoring Environment の初期ビューのナビゲーション

Lombardi Authoring Environment を初めて開始すると、次のような Process Center Console が開きます。

「簡易」インストール・オプションを使用した Lombardi Process Center のインストール



Lombardi Process Center Console では、プロセス・アプリケーションの作成と管理のほか、テスト、ステージング、および実動サーバーへのスナップショットのインストールや、その他のタスクを行うことができます。次の表で、上記の Lombardi Process Center Console の図に示されている番号が付いた各領域について説明します。

1	使用可能なタブの 1 つをクリックして、作成または管理したい項目を選択します。「Process Apps」をクリックすると、上記の図に示されているページに進み、プロセス・アプリケーションを作成および管理することができます。「Toolkits」をクリックすると、ツールキットを管理するための同様なページが表示されます。環境内に構成されているサーバーを管理するには、「Servers」をクリックします。
2	Process Center リポジトリへのアクセス権限を管理するには、「Admin」をクリックします。
3	「Designer」ボタンをクリックすると、Lombardi Authoring Environment の Designer インターフェースに直接進むことができます。Lombardi Authoring Environment の Designer およびその他のインターフェースについて詳しくは、次のセクションを参照してください。「Help」ボタンをクリックすると、Lombardi Authoring Environment のオンライン・ヘルプが表示されます。
4	これは Process Center Console の主領域で、ここにはプロセス・アプリケーション、スナップショット、またはサーバーなど、現在管理している項目が表示されます。「All」、「Favorites」、または「Archived」オプションをクリックして、表示される項目をフィルターに掛けることができます。設定を表示および管理したい項目をクリックしてください。この例では、リストされているプロセス・アプリケーションの 1 つをクリックして、そのスナップショット、ヒストリー、および一般的な設定を表示および管理することができます。特定のプロセス・アプリケーションを Designer で開くには、アクセスしたいプロセス・アプリケーションの「Open in Designer」オプションをクリックします。
5	これらのオプションを使用して、プロセス・アプリケーションを新規に作成するかインポートします。
6	Process Center Console の全体を通じて、このような情報ダイアログを使用できません。表示されるリンクをクリックすると、対象について詳しく知ることができます。この例では、対象はプロセス・アプリケーションです。

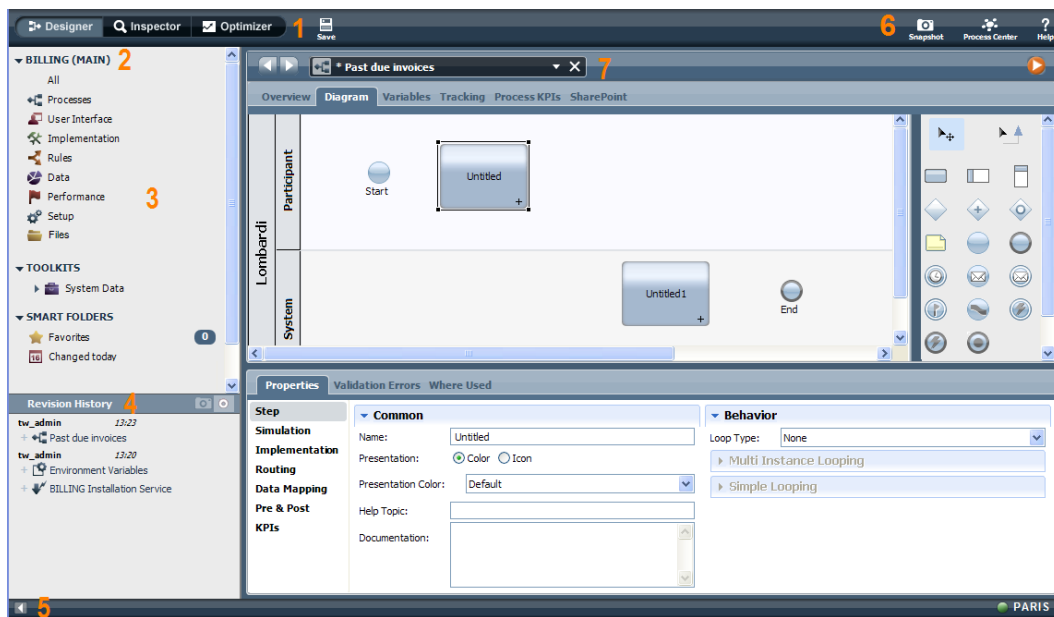
- プロセス・アプリケーションを作成し、プロセス開発を開始するには、「*Authoring Environment ユーザー・ガイド*」またはオンライン・ヘルプの『*初めてのLombardiプロジェクトの作成*』を参照してください。
- Process Center Console で実行できるすべての管理タスクについては、「*Authoring Environment ユーザー・ガイド*」またはオンライン・ヘルプの『*Process Center リポジトリの管理*』を参照してください。



Web ブラウザーを開いて、`http://[host_name]:[port]/ProcessCenter` を参照することによっても、Process Center Console にアクセスできます。Lombardi のユーザー名とパスワードを使用してログインできます。ブラウザーから Process Center Console にアクセスした場合は、プロセス・アプリケーションなどのライブラリー項目を選択できず、ライブラリー項目が直ちに「Designer」ビューに表示されます。Designer およびその他の使用可能なインターフェースを使用して対話的に作業を行うには、Authoring Environment を開始する必要があります。

Lombardi Authoring Environment の各インターフェースへのアクセスと使用

Process Center Console から「**Designer**」ボタンまたは「**Open in Designer**」オプションをクリックすると、Lombardi Authoring Environment でプロセス開発を開始することができます。次の図は、Designer インターフェースと各機能領域を示しています。



Designer インターフェースを使用して、プロセス・モデルとその基盤となる実装（サービスなど）を開発できます。次の表で、Lombardi Authoring Environment の上記の Designer インターフェースの図に示されている番号が付いた各領域について説明します。

1	適切なボタンをクリックして、「Optimizer」ビューおよび「Inspector」ビューを含む、Lombardi Authoring Environment 内のその他のインターフェースにアクセスします。
2	現在開いているプロセス・アプリケーションを表示します。この例では、「Billing」プロセス・アプリケーションが開かれています。
3	現在開いているプロセス・アプリケーションに含まれているライブラリー項目のタイプを示します。例えば、「Processes」のカテゴリーをクリックすると、開いて変更できるプロセスが表示されます。

「簡易」インストール・オプションを使用した Lombardi Process Center のインストール

4	現在開いているプロセス・アプリケーションの改訂履歴を示します。この例では、あるユーザーが最近、開いているプロセスに項目を追加しました。
5	ライブラリーおよび改訂履歴を非表示にするには、このアイコンをクリックします。このアイコンを使用すると、ライブラリーおよび改訂履歴の表示と非表示をトグルで交互に切り替えることができます。このトグル制御は、すべての Lombardi Authoring Environment インターフェース、つまり、Designer、Optimizer、および Inspector で使用できます。
6	これらのアイコンを使用して、スナップショットの作成、Process Center Console へのアクセス、オンライン・アシスタンスへのアクセスを行います。
7	現在 Designer で編集用に開いているライブラリー項目を表示します。この例では、ユーザーはあるプロセスを開いており、そのプロセスのステップを作成するために、ダイアグラム、パレット、およびプロパティーを使用して作業中です。

Process Center Console も含め、Lombardi Authoring Environment で使用可能な各インターフェースで実行できるタスクについて詳しくは、「*Authoring Environment ユーザー・ガイド*」またはオンライン・ヘルプの『*Lombardi タスク*』を参照してください。

Lombardi コンポーネントの削除

Lombardi をシステムから削除したい場合には、アンインストーラー・プログラムで、Lombardi のインストール・ファイルとフォルダー、組み込みデータベース・システム、および組み込みアプリケーション・サーバーを削除します。

開始する前に、以下の作業を行ってください。

- 保持したいすべてのファイルをバックアップします。
 - Lombardi サーバーを Windows サービスとして実行している場合には、最初にそのサービスを削除してください。サービスを削除してもファイルが削除されることはなく、Windows サービスのリストからサービスが削除されるだけです。
 - IBM WebSphere Application Server v7.0 - ProcessCenter01 の Windows サービスを削除します。
1. アンインストーラー・プログラム [Lombardi_home]¥uninstall¥uninstall.bat を実行します。これは、「コマンドプロンプト」ウィンドウから実行するか、または Windows エクスプローラでファイルをダブルクリックすることによって実行できます。
 2. アンインストーラー・プログラムが完了したときに、いくつかのインストール・ファイルを手動で削除しなければならない場合があります。例えば、Windows エクスプローラまたは「コマンドプロンプト」ウィンドウで Lombardi インストール・ディレクトリー内のディレクトリーを開いている場合には、アンインストーラー・プログラムはそのディレクトリーを削除できません。
 3. アンインストーラー・プログラムは、「スタート」メニュー、「すべてのプログラム」メニュー、「クイック起動」ツールバー、およびデスクトップからショートカットを削除しません。これらのショートカットは、手動で削除してください。
 4. ¥DB2 ディレクトリー (Lombardi がインストールされていたのと同じドライブ上に存在) およびその中のすべてのファイルを削除してください。

特記事項および商標

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒242-8502
神奈川県大和市下鶴間1623番14号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

Intellectual Property Dept. for WebSphere Software
IBM Corporation
3600 Steeles Ave. East
Markham, Ontario
Canada L3R 9Z7

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があり、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM 対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。

© Copyright IBM Corp. _年を入れる_. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml [http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml] をご覧ください。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標です。